目次

DOS/AVAILをPC-DMISへ変換 1

DOS/AVAILのPC-DMIS内への変換 : イントロダクション 1

測定ルーチンファイルの翻訳 1

DOSからWindowsへ 1

Avail/MMIVからWindowsへ 2

測定ルーチンファイルのインポート 2

DOS、Avail、及びMMIVファイル 2

DOS/AVAILをPC-DMISへ変換

DOS/AVAILのPC-DMIS内への変換：イントロダクション

PC-DMISはユーザにDOSかAvail に作成された測定ルーチンを取って、またWindows対応のPC-DMIS
に起動できるようにそれらを変換することを許可します。変換プロセスが利用できるために、このオリジナルの測定ルーチンはAvailかPC-DMIS (DOS)バージョン
3.2以上で作成される必要があります。

注：Windowsの測定ルーチンの家庭教師のインポートはのリリースで利用できません。

この章の主なトピックは、次のとおり:

- 測定ルーチンファイルの翻訳
- 測定ルーチンファイルのインポート

測定ルーチンファイルの翻訳

測定ルーチンファイルを翻訳するには:

DOSからWindowsへ

1. DOSを使用してPC-DMIS for
   DOSを起動します。**アクティブなパーツ**一覧が表示されます。
2. メニューリスト から**POST**ボタンをクリックします。
3. 翻訳される測定ルーチンを選択してください。PC-
   DMISは**ポスト・オプション**メニューを表示します。
4. メニューリストから[**DIMS CMDS**]ボタン(DIMS コマンド)を選択して下さい。PC-
   DMISが、**出力ファイル名**を尋ねます。
5. 適切なファイル名（3文字拡張子が続く）を入力してください。ファイル名に「.dim」の拡張子を使用することをお勧めします(ただし、必須ではありません)。
6. PC- DMISが測定ルーチンをポストプロセスしているとき、それはユーザPC -
   DMISプローブファイルの名前を入力するように求めます。適切な名前を入力して下さい。
7. WindowsベースのPC-DMISで使用される プローブのファイルを確認します。

8. キーボードで Enterキーを押します。

9. ポスト処理が完了した場合、PC-DMISは任意のキーを押して継続することを求めるメッセージを表示します。PC-DMISはその後で**アクティブなパーツ** リストに戻ります。

10. DOS用のPC-DMISから退出して下さい。

Avail/MMIVからWindowsへ

ウィンドウのPC-DMISに起動するために、Avail/MMIVファイルは変換される必要があります。ファイルがLLF*.*ファイル名で保存することを推奨します(ただし、必須ではありません)。「ルーチンファイルのインポート」にある指示に従ってください。

測定ルーチンファイルのインポート

測定ルーチンのファイルをインポートする場合、以下の手順に従って下さい。ファイルのタイプに関わらず、そのプロセスは同じです。

DOS、Avail、及びMMIVファイル

1. PC-DMISを開始します。PC-DMISが起動し、**ファイルを開く**ダイアログボックスが表示されます。

2. **キャンセル** ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

3. 新しい測定ルーチンを作成するには、[**ファイル | 新規**] メニューオプションを選んで下さい。**新測定ルーチンダイアログボックス**が表示されます。

4. 新しい測定ルーチンのファイル名と他の必要な情報を入力します。

5. **OK**ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じ、PC-DMISで**プローブのユーティリティ**ダイアログボックスを開きます。

6. **プローブのユーティリティ**ダイアログボックスで、**キャンセル**ボタンを押してダイアログボックスを閉じます。

7. **[ファイル | インポート]**を選択し、適切な入力データタイプ(DMIS、AVAIL、またはMMV)を選択します。**開く**ダイアログ ボックスが現れます。

8. **開く**ダイアログ ボックスから、正しいファイルを選択します。これが.DIM / .LLF*.*拡張子で保存された場合、PC-

DMISは適切な拡張子の付いているすべての利用可能なファイルを自動的に表示します。必要に応じて正しいディレクトリに変更します。

9. [**インポート**]ボタンをクリックして下さい。測定ルーチンに
CADデータが既存な場合、インポートしたCADデータで既存のCADデータの**マージ** か
置き換えを選択できます。 **変換オプションの選択** ダイアログ
ボックスはこれらの変換オプションで表示されます：

    - メインルーチンと呼び出されたすべてのｻﾌﾞﾙｰﾁﾝを1つのDIMS測定ルーチンに変換。
    - 指定されたファイルのみを変換して下さい。サブルーチンの呼び出しを含みますが、サブルーチン ファイルを変換しないで下さい。
    - メインルーチンと呼び出されたサブルーチンをの別々のDIMS測定ルーチンに変換。

10. 利用可能な変換方法のひとつを選択して下さい。

11. **OK** ボタンをクリックしてまたは「ENTER」キーを押して下さい。

PC- DMISは、DIMS / AVAIL / MMIVデータやリターンを変換してから、測定ルーチンに戻します。

- 各TOOLCHANGEでは、PC-DMISプローブファイルを選択するよう求められます。
- 各TIPCHANGEでは、PC-DMISプローブを選択するように求められます。

ユーザの測定ルーチンは現在、 PC- DMISで実行する準備ができています。

重要事項:機能ブロックに `IFTEST` キーワードまたは`GOTO/LABEL`
コマンドを含むAVAIL測定ルーチン、 または 機能ブロックに `BRANCH/TEST`
キーワードまたは`BRANCH/LABEL`コマンドを含むMMIV 測定ルーチンをインポートしている場合
、PC-DMISは機能ブロックの*前に*それぞれの`IF` と`GOTO` コマンド を移動します。

インポートされたDOS 測定ルーチンのMOVE/PH9_OFFSET コマンドの理解

DOSバージョンでは、ソフトウェアはPH9を新しい角度に回転し、それから自動移動を作成していたので、チップは角度が変更される前の位置に戻って終了していました。しかし、Windows対応のPC-DMIS
では、PH9を新しい角度に回転した場合、ソフトウェアはこの余分な移動を行いません。つまり、DOSの測定ルーチンを変換、インポートしたルーチンに対しては、PC-DMIS for

Windowsは自動的に`MOVE/PH9_OFFSET`コマンドを挿入してPC-DMISのDOSバージョンからPC-DMIS for Windowsへの変換を支援しています。

このコマンドはシンタックスを持ち、2つの入力を取ります：

```
MOVE/PH9_OFFSET,INPUT1,INPUT2
```

INPUT1は新しい チップ角度です。

INPUT2は新しい チップ角度です。

注記: 通常のWindows対応のPC-DMISの測定ルーチンでは、このコマンドを使用する必要はなく、いずれのメニューからも、それを選択することはできません。